

令和元年 第2回 鳥取県中部地域公共交通協議会について(報告)

- 1 日 時 令和元年10月31日(木)15時30分～16時30分
- 2 場 所 倉吉交流プラザ 視聴覚ホール
- 3 出席者 委員29名中23名
- 4 内 容 平成30年度事業報告報告及び決算報告について承認いただきました。
- 5 資 料 別紙のとおり
- 6 協議内容 以下のとおり

1. 開会

(事務局：内川課長)

委員29名に対して23名の出席。また、欠席6名のうち2名から承諾書の提出あり。鳥取県中部地域公共交通協議会設置要綱第5条第3項の規定による開催要件の過半数を満たしていることを報告。

鳥取県中部地域公共交通協議会設置要綱第5条第7項の規定により、原則公開となっていることを説明。

2. 会長あいさつ

(石田会長)

皆さんこんにちは。皆さん方には本当にお忙しい中、ご出席をいただきまして大変ありがとうございます。大きな災害が続いたわけでありますけども、ようやく天気も安定してきたかなという風に思っているところでございます。皆さん方には日頃から本協議会に対しまして大変ご支援ご協力いただいておりますことに厚くお礼を申し上げたいと思います。

この公共交通の問題はこれからの重要な課題だということで、いろいろなところで話題とされています。今日の日本海新聞にも、鳥取西高の生徒さんがGISを使った分析をされて提案をいただいているという記事が載っておりました。実物は私もまだ拝見しておりませんので、具体的な内容については承知しておりませんが、多くの皆さんの関心を集めている事項だろうという風に思っております。

この協議会でもその対策について検討する中で、まず第1弾としてこの10月から北条線・赤碕線の見直しと合わせて青山剛昌ふるさと館、あるいは倉吉総合産業高校、西倉吉工業団地などへの新規運行にも取り組みを進めているところでございます。まだ現状ではほとんど乗っていただくという状況ではないようですけども、少し時間をかけてこの状況もしっかり見守って、分析もしていく必要があるかなという風に思っております。今後さらに第2、第3弾と言うことで、来年の4月以降に向けての作業も進めていきたいと思っております。今日はその辺についてもまた報告をさせていただいて、ご意見をいただければと思っているところでございます。

短い時間ではありますが、有意義な意見交換ができたらと思っておりますので、熱心にご討議いただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしく申し上げます。

3. 審議事項

(1) 平成 30 年度事業報告報告及び決算報告について

(事務局説明) 資料 1 について説明

(羽根田委員) 監査報告

(質疑なし)

4. 報告事項

(1) 鳥取県中部地域公共交通網形成計画の評価指標について

(事務局説明) 資料 2 について説明

(質疑応答)

(矢田委員)

目標 3 のところで、平成 30 年度の学生の利用ということで 225 名と伝えられていますけども、これは定期券だけの購入者なのか、それとも回数券や現金等が入っているかどうかという部分をお願いします。

(事務局：阪本)

結論から言うと、高校に照会してバス通学者を把握しているのですが、定期券だけなのか回数券も含むのかということまでは細かく把握し切れていません。

(加藤委員)

目標 4 のところで、情報提供の強化、バスマップの配布枚数ということですが、平成 30 年度の配布状況をもう少し詳しく教えていただければと思います。いつ頃の時点で配布されて、いつ頃なくなったのかということで、30 年度はすでに作成されて配布されているかと思うんですけども、在庫がほぼない状況ということになっていて、せっかくこれを見ると好評を得ているということですから、これがなくなった状態でニーズがある状態が続いているというのはちょっともったいない気がします。とりあえず増刷を対応しているだとか、大判で印刷すると経費がかかることもありましようから、例えば A3 判くらいで簡易に印刷できるようなもので、字が小さくなるかも知れないですけど、そういったもので追加で配布をされるといった風に機動的に対応していただけたらいいのではないかと思います。

それから例えばこういったものが HP だとかネット上だとか、いろんなところで掲載されていれば、紙ベースじゃなくてもそういったところでもアクセスして使えたり、場合によっては印刷できたりということもあろうかと思しますので、少しその辺の配布状況や横の展開とか、そういったことをどのようになっているかとか取り組んでいただければという風なところで質問をさせていただきます。

(事務局：安道)

平成 30 年につきましては、昨年 9 月に印刷を終わらせていただきまして、10 月 21 日の福興祭を皮切りに配布をさせていただいております。昨年の時には 300 部配布させていただきました、大変好

評を得たというところであります。その後、各市町、観光協会等に配らせていただいて、特に観光協会の方でご利用があるということで、利用いただいたという形になっています。かなり早い時期になくなったということがございまして、追加分はないのかというような形でお聞きになられたとすることがございました。こちらについては、対応としては先ほど言っていたような形で、A3判を印刷するなどという形で今後は対応していきたいと考えております。

HPへの掲載についてでございますが、鳥取県のHPの方に掲載していただいておりますので、こちらの方から印刷等ができるようになっております。A3という形で印刷も可能だと思いますので、こちらの方も見ていただくとご利用いただけるのではないかと考えております。

(石田市長)

今年の状況はどうなっていますか。

(事務局：阪本)

今年は、もう後1～2週間程度で完成して、10月の路線再編を反映させたものをまた新たに配布させていただきたいと考えておりますので、今しばらくお待ちいただきますようお願いいたします。同様に部数が5,000部となっておりますので、またHPや印刷して配布するといったことも活用して、在庫が切れたら補充できるような形でやっていきたいと考えております。

(亀井委員)

湯梨浜町です。目標3のところなんですけども、先般新聞報道等でも報道されておりましたが、高校生の通学費の助成を県と町の方で連携して助成するような話というのが出ておまして、県の方でもぜひ子育て人材局のほうとしっかり連携をとっていただいて、子育て世代の負担軽減を図ることで子どもたちが増えるようなことにならないかなと期待をしているところですのでよろしくお願ひします。

(事務局：矢吹)

おっしゃるとおりでございます。人材局とそれから市町村とも一緒になってやりたいと思います。ありがとうございます。

(石田市長)

なかなか数字が上がりにませんが、少しでも上がるように努力をしていきたいと思ひます。

(2) 路線再編：令和元年10月実施分等に関する報告について

(事務局説明) 資料3について説明

(質疑応答)

(加藤委員)

(3)の倉吉総合産業高校の取り組みにつきましては、利用者が結構多いと申ひますか、そういう感じで受け取らせていただいたんですけども、ちょっと細かいことですが、延べ13名というのは、延べと

というのはどういう意味でしょうか。朝の便、帰りの出発便合わせてという意味なんですか。また、朝の便と帰りの出発便での利用の状況なども教えていただければと思っております。

それから赤碕線に関していうと、こちらはまだそんなに新規の通学生ということには至っていないようですけれども、既存の利用している生徒さんにとっては利便性が高まっているというようなことでこうやって中部地域で広域で対応して利便性を高めた一つの事例になっているのではないかと思いますので、引き続きチラシの配布等でPR、利用の募集をしていただけたらと思います。

それから個々には掲載されていないんですけれども、10月からの路線再編で言えば、赤碕線の減便のほうも実施されているかなと思っております。そちらの方も何か事業者さんであるとか沿線の自治体の方で何か状況を把握されてたりすることがあったら、まだ1ヶ月経っていないわけなんですけれども、何か情報があったら教えていただければなと思います。

(事務局：阪本)

まず倉吉総合産業高校線の延べ人数の考え方なんですけれども、先生のおっしゃったとおりです。行きに乗った人数、帰りに乗った人数、合わせて13人ということでございます。傾向としまして、行きと帰り別でいいますと、統計を取った先週の4日間では、行きが4日間で23名、帰りが30名ということなんです。実は開始当初帰りの人数がかなり乗っていないというようなデータが出ていたんですけれども、先週に入りまして帰りの人数が上回るというような結果になっておりまして、そもそもの時刻設定の際、事前調査で一番乗る時間帯はいつですかということに基づいて設定した時間帯の効果が出てきているかなという風に感じております。

赤碕線につきましては引き続きチラシ等を配布して、また利用を伸ばしていきたいと考えております。ある程度高校生がターゲットとすることで、その高校に配布すればターゲット層はそのまま直で訴求できるというような環境になっておりますので、高校と協力して利用者を伸ばしていきたいと考えております。

(事務局：安道)

赤碕線の減便についてなんですけれども、状況把握について計画の方はしておりませんが、今後把握はしていく必要はあるのかなという風に考えております。バス事業者とも調整しながら実施をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(石田市長)

今のところ、現時点でそういう苦情みたいなものは来てないんでしょうか。

(福永委員)

日ノ丸自動車の福永です。いつもありがとうございます。その質問につきましては、ちょっと情報を持っていません。とりあえず利用できる状況が整ったということで、まずは利用していただければと思っております。

(事務局：安道)

協議会の方で作成したバス路線の見直しをします、ご迷惑をおかけしますというような内容のチラ

シを、赤碕線のバスに実際に載せていただきましてご意見等をお寄せいただくような機会を設けております。我々の方に届くようにしておりますけれども、路線に対する苦情とか問い合わせというのは今のところないという形になっております。

(大下委員)

中部高P連の大下です。先ほどから質問等の中に学校関係の高校のことが出ておりましたが、現状について報告をさせていただきたいと思います。中部の高P連、私学を合わせて7校、先月倉吉市の企画課の方から来ていただいて、校長・PTA 会長会でご報告いただきました。高校生のバス利用推進のために今後とも協力していただくという風な話を意見交換させていただいたところです。

高校関連は10月からの再編になっておりますが、この10月の再編に関しましては、すでに高校生には通学の形ができています。というのは、親だったり学校によっていろんな形で自分たちの通学の形を引き継いでいるような。ただ利便性の面でこれから学校もアピールをしていこうというところなんです。また、先ほど総産線の夕方の利用が増えたというのも、実はクラブが少なくなる時期であったり、そうすると遅くならず早く帰れるとか、あるいは受験生の問題であったりということもあります。今回再編された総産の直通便については、校長先生や生徒さんも今後とも大変便利になったので、これから利用させていただこうという風な形を聞いております。

それと農高さんに関しましては、まだまだ歩いて西倉の方から行ってらっしゃる方があって、これから見込めるんじゃないかなというような話も出ています。

それから西高さんについても、これから時期が冬になり、雪が降ったり、先ほども言ったようにクラブ、進学の関係があることから、その辺も踏まえて来年の生徒さんの新入生への対応をとっていただけないかなという話をこの間させていただいております。

(石田市長)

ありがとうございました。もう少し状況を長期的に見ていく必要があるのかなと思います。

(3) 路線再編：令和2年4月以降運行開始分の検討状況について

(事務局説明) 資料4について説明

(質疑応答)

(加藤委員)

三つほど質問をさせていただきます。2、3ページの倉吉市中心市街地の再編のところなんですけど、現在のトータルで120～130往復程度あるものを、美術館が予定されている南側に振り分けて、もう少し資源を投入しよう。逆に言うと今のルートがたくさん走っているからということなんですけど、そもそもこの考え方としては、過密ダイヤであるといえますか、供給がかなり多いのでということだと思いますので、120程度あるものを120そのまま振るだけなのか、もう少しこの機会に減量して、120を110や100にするといった考え方はないのだろうかということがございます。例えば路線名でいうと、パークスクエア線というのは市内で完結の系統で、周辺から入ってくる路線がここを通過するというものがそういう形に通過するわけなんですけども、例えばここだけ通っているパークスクエア線が6:6と

いう風にあります。こういったところを見直すと、何かこの契機にトータル数も含めて考えるということもあると思います。「じゃあどう考えるんだ」と問われると難しいんですけども、この120というのを80:40にした根拠みたいなものや、南側にそれだけニーズがあるのだろうかという風なことを。あるいは逆に美術館に来られる人を想定した人数から設定しているであるとか、そういう割り振り方を考える必要があるのかなと思いました。

それから二つ目なんですけども、これは10ページからのところで、鳥取看護大学・鳥取短期大学への路線バスの乗り入れということです。これは現在のスクールバスを路線バスを乗り入れたりというような形で考えているわけなんですけども、12ページのところに松崎線等を取り入れる場合にこれを西倉吉じゃなくて倉吉駅で止めるという風なことが書いてあるんですけど、これはなぜここで止めるということになるのでしょうか。鳥取看護大学・鳥取短期大学の方に入っていくのでその分だけ運行キロが伸びるから、倉吉駅で止めて西倉吉までの運行を付け替えるみたいな、そういう考え方もしれないんですけど、例えば学生さんたちが大学で乗車して、そのまま倉吉駅以降の西倉吉までの間のところまで行こうとしたら、直通便の方が利便性があつたりだとか、あるいは学生さんたちをもうちょっと町にバスに乗って出してもらおうとかっていう目的や趣旨があるならば、むしろ街中まで西倉吉だとか、そういったところまでの直通便が乗り入れた方が学生さんたちにとっては便利がいいのかなと思うところがあるものですから、ちょっとその辺どういう風に考えるのかなというところなんです。

最後の三つ目なんですけども、16ページのところにこれも駅北の商業地域により近いところ、メイン通りにバスを一部経由するというので、利便性が高まると思うんですけど、ちょっとダイヤを見ましたら、例えば橋津線と北条線で大体同じくらいの時間帯にそれぞれから倉吉に入ってくる路線が経由するがために、例えば新生病院前とかが橋津線だと再編②のところを見ると10時47分、北条線で⑥のところは10時36分ということで、割と11分くらいの間隔で両方から来て通るので、それぞれの地域から湯梨浜とか北条から来られる人はそれぞれいい時間帯に来られるんでしょうけど、例えば買い物や通院して帰ろうかなと言う人にとっては、ちょっと何か近い時間帯で2本出発してしまうので、片方がもう少しその後の11時台、12時台だとかに発車したら、病院帰りの人たちの選択肢が1本増えるかなと。逆に倉吉駅を出発する方もこの再編⑧のほうですね、北条線の方は12時40分に倉吉駅を出発して、橋津線の方の再編⑤のほう、12時50分に出発するようになっていますから、10分後には同じところを走るということになるので、これもどちらかを一つ後ろのダイヤとか、前のダイヤにすると少し間隔が開いて倉吉駅から商業施設に行く方の少し選択肢ができるかなと。これだと事実上1本みたいな形になるのではないかなという風に思ったものですから、ちょっと意見をいただきました。

(事務局：安道)

まず120本～130本程度をもう少しスリムにできないかというご意見だったかと思いますが、こちらにつきましては、そういった想定をしておりませんでした。ご意見をいただきましたので、こちらの方でもバス事業者さんとしっかり協議をしてから進めさせていただきたいと思います。その際にまたご意見やご指導いただければと思っております。

それから先ほどありました120便の内100便と20便を80便と40便にした理由にということにつきましては、明確な根拠というのはちょっとないんですけど、美術館の方ができるということで、こちらの方に割り振る必要があるという点と、既存のバス路線の方についても比較的利用の方もですね、多い

ということもありますので、そちらのバランスを見ながら検討していきたいと思います。現実的なところから行けばこちらあたりからスタートするのが一番いいのではないかとということで、そのような形にさせていただいております。

続きまして路線バスの短大への経由というところでございますけども、12 ページの方でご意見をいただきました。A 案ということで、松崎線の方について倉吉駅止めとする方向性を一旦検討させていただきましたけども、こちらについては基本的には廃案という形で考えております。ですので基本的には松崎線についてはこれまで通り松崎の方から西倉吉まで行くという形で予定をさせていただきたいと考えております。

続きまして 16 ページでございます。こちらの方について橋津線、北条線それぞれのルートが同じような時間帯に病院や駅を出発するのではないかと意見をいただきました。こちらの方につきましては、病院の利用者の方々ということで、こういった時間帯に来たいのではないかとということで、ある程度聞き取りも含めて実施をさせていただいたものになります。確かに時間をずらすということもございまして、受診をした後にお昼頃に帰りたいであるとか、そういうこともあるかなということでこのような時間を設定させていただいております。ただ検討の内容ということで、時間帯についてはご意見をいただきましたので、もう一度検討をした上で考えていきたいと思っております。

(石田市長)

具体的な対案などについては今後詰めていく必要があるんだろうと思っております。加藤先生のご意見も踏まえて検討していただければと思っております。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。こちらの方についてはまだ少し時間もありますし、詰めていかなければいけない事項も多々ありますので、今後ともご意見いただければという風に思っております。

5. その他

(徳丸委員)

日本交通の徳丸です。すでに皆様ご承知でおられると思っておりますけど、今日の会議とは関係ないんですけど、新聞・テレビ等の報道で私どもの路線バスの運賃表の誤表示、このことについてお詫びと簡単に説明をさせていただきたいと思っております。この経過はですね、私どもの路線バスの運行ルートの経由地を変更しました、関金線の方が広瀬線、そして湯梨浜町の橋津線の一部、この系統におきまして運賃表の確認不足によりまして誤表示が分かりました。内部の調査によって分かりまして、各方面にいろいろご迷惑をかけておりました。そして新聞等に出まして、どんなことになるのかなと大変心配しておりましたけど、翌日の新聞に出ましてから 3 件問い合わせがありました。いずれもその系統のところではなくて、違うところの定期券を持たれていた方からの問合せでして、今のところはそういうことで払い戻しもしたところも全くありません。今もまだずっと表示もさせていただいておりますけど、そういうようなことで本当にいろんなところの方にご迷惑をかけまして、申し訳ございませんでした。

(岡山委員)

鳥取県観光連盟の岡山です。10 月 1 日から北条線と赤碓線が青山剛昌ふるさと館に寄るということになりまして、県外からのお客様も含めまして便利になる可能性が見えてきたかなと思っております。

それで一つ提案があるとすれば、停留所にあります表示なんですけども、案外お住まいの方々に対しての説明ということに留まっているようなところがありまして、赤碕線も北条線も倉吉駅、それから倉吉パークスクエア北口、あとは赤瓦白壁土蔵群、それとコナン駅、青山剛昌ふるさと館の5つの停留所があるかと思います。これらについて『だけ』を抜き出したような形で説明をしますと、観光客の方には分かりやすいんじゃないかなと思ひまして、もしそのような取り組みが許されるのであれば、私どものHPでご紹介したいと思ひますし、また停留所の表記についても県外のお客様『だけ』がここだけ見れば分かるような表記をするといいのかなと勝手ながら考えているところでございます。

また青山剛昌ふるさと館と倉吉の白壁土蔵群あたりを有機的に結びつけて周遊性を高めるという意味では、例えば青山剛昌ふるさと館のチケットを持って白壁土蔵群に行ったら何らかのくじ引きができるとか、またはその逆で白壁土蔵群・赤瓦のレシートを持って行ったら青山剛昌ふるさと館では団体料金で入れるとか、そういうような取り組みにも可能性が開けていくのではないかなと思ひます。ということで私どもも県庁に関係すべきところとは協議調整して工夫していきたいと思ひておりますし、また観光連盟のPRのサイト等でも取り組んでまいりたいと思ひますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

(事務局：安道)

ぜひご協力の方お願いしたいと思ひますのでよろしくお願いいたします。

(石田市長)

情報発信の仕方はいろいろ考えていく必要があると思ひますので、今のことも含めてよろしくお願いいたしたいと思ひます。

(大下委員)

先ほど質問していなかったんですけど、短大の方のバスの需要というところについて、目標の時期としてはいつ頃になっているのでしょうか。ある程度予定を組んでいらっしゃるのでしょうか、まだまだといったところでしょうか。

それから先ほど地区の方の説明でバスの再編について今後の自治公民館への説明というところですけども、社地区、西倉吉のあたりにはちょっと伝わっていないなというところがありますので、その辺ももう少しアピールの方をしていただいて、ということがあります。

それから高P連として要望がございまして。総産の再編等いろいろしてもらったんですけど、中央育英さんとか北高さんとかまだまだ利用を変えて欲しいという風な話がありましたので、その辺を経過を含めて今後改めて聞き取りをお願いしたいと思ひます。

それともう一点だけ。観光利用のところで、今韓国の便がなくなったりといろいろしていますが、インバウンド対応への表示に関して、青山剛昌ふるさと館の利用者は台湾の方が多いですね。一応中国の表示もありますけど、北京語です。香港とかもありますけどそれぞれニュアンスが若干違うので、その辺の表示とか案内自体も誰か専門の方にアドバイスをいただくとか、うまい具合に取り組んでいただいたらなと思ひます。

(事務局：安道)

鳥取短期大学の無料の運賃の関係なんですけども、こちらの方については学生さんの方がスクールバスの方ですね、事前に入学料とかも含めて運営されていると考えられています。やはり路線バスに乗っていただくというときに、同じように乗っていただくことは大切なんですけども、そちらの運行をするに当たって、乗るに当たっての事前の料金であるとか、そちらの方の調整については大学さん側としないといけないと考えております。そちらの方の協議についてはまたバス業者さんと含めて協議の方が整っておりませんので、時期についてはまだ未定ということになります。

あと二点目、西倉吉方面の住民の皆さんの方に十分な周知ができていないと言うことで、大変申し訳ございません。いろいろな機会の方で説明をさせていただきたいと思っているのですが、例えば11月27日に行政懇談会の方が開催されるということで予定をさせていただいております。その中で今の10月1日の変更であるとか、今後の予定というものも触れながら説明をさせていただきたいと考えています。個別に各自治公民館さんのほうから要請がありましたら、もちろん説明等もさせていただきたいなと思いますので、ぜひお声がけいただければと思います。

(事務局：阪本)

北高さんと中央育英さんですけど、具体的にはこれ高校のPTAさんからのご意見ですか、それとも高校からの意見でしょうか。

(大下委員)

校長先生、学校からの意見です。

(事務局：阪本)

わかりました。ではまた聞き取りを行いたいと思います。

表示のアドバイスですけども、台湾語とか北京語とか、青山剛昌ふるさと館では台湾の方が一番多いというお話ですので、こちらもちょうとアドバイスをいただくことも検討していきたいと思っております。

(石田会長)

ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。貴重なご意見をいただきました。今後の見直し作業に活かしていきたいと思っておりますので今後ともご意見を賜りますようお願いしたいと思います。それでは本日の協議会、以上で終了とさせていただきます。今後ともご支援いただきますようお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

6. 閉会